

令和4年度 自己点検・自己評価ならびに学校関係者評価結果

評価基準 当てはまる:3 やや当てはまる:2 当てはまらない:1

I 教育理念・教育目的

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育理念・教育目的は、養成する理学療法士、作業療法士が卒業時点においてもつべき資質を明示している	3.0	教育理念・教育目的は卒業時にもつべき資質を明示している。学生便覧に記載されており、各学科の3つのポリシーにより明確に示されている。教育理念・教育目的は学生便覧に示されており、各種オリエンテーション時に伝えるようにしている。学生便覧の使用機会を増やし、具体的に理解できるような説明に努めているので学習の指針になっていると思われるが、学生の認識、利用としては十分とはいえない。教育理念・教育目的は本学院の教育上の特色を明示している。学生便覧の他、パンフレット等の配付物やホームページに載せ、各種説明会で説明している。	・特記事項なし	・教員が異動することで、継続して取り組むべき課題が、積み残されてしまっているのではないかと感じる。 ・今後とも学習の指針となるよう努めてほしい。
2	教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている	2.6			
3	本学院の教育上の特色を明示している	3.0			

II 教育目標

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	理学療法、作業療法実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している	3.0	教育目標は学生便覧に明示され、実践者および学習者の両側面から設定されている。教育目標に沿ってカリキュラムを編成しており、教育内容を概ね網羅している。具体的な表現はされているが、一部実現可能性の判断が難しいものもある。教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	・特記事項なし	・適切に設定されており、問題ない。今後も継続してほしい。
2	教育目標は、設定した教育内容を網羅している	3.0			
3	教育目標は、具体的に実現可能なものとなっている	2.8			
4	教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある	3.0			

III 教育経営

III-1 教育課程編成者の活動

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育課程編成者(教育主事以上の管理者)と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育の評価との関連性を明確に理解している	2.6	教育課程と授業実践、教育の評価との関連性については、科内での討議や委員会での検討を通して理解に努めているが、教員の理解度には差があり、全体が明確に理解するまでには至っていない。教育理念・教育目標の達成に向けて、具体的な目標を設定し活動を行っている。ミーティングを通して一貫した活動を行えるように努力しているが、教員間で十分な共通認識が得られているとは言えない。	・特記事項なし	・教育主事と教職員との間のコミュニケーションによるもので、内部評価も点数が上がっており、コミュニケーションは取れているということよい。
2	教育課程編成者(教育主事以上の管理者)と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている	2.5			

III-2 教育課程編成の考え方とその具体的な構成

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	理学療法、作業療法学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	2.7	明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成しているが、各教員が十分に理解しているとは言えず、編成内容について検討の余地がある。	・特記事項なし	・自己評価について特に問題なし

III-3 科目、単元構成

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している	2.6	明確な考え方と根拠をもって科目を構成しているが、教員の共通認識としては十分とは言えない。明確な考え方と根拠をもって単元を構成するよう努めているが、科目によって改善の余地がある。科目と単元が教育理念・目的、教育目標と整合性を持つよう改善に取り組んでいるが、不十分な科目もある。構成した科目は概ね妥当と思われるが、社会情勢の変化に応じた対応は必要である。構成した科目は本学院の特徴を概ね表している。国立病院機構職員による講義や政策医療に関する単元、早期からの臨床見学など国立病院機構の特色を生かした授業がある。	・特記事項なし	・単元の構成や計画は検討なされていると思われるが、教員個々の認識を1つにする努力は続けて頂き、より効果的な実践につなげてほしい。 ・人事異動や時間確保の問題はなかなか解決が困難と思われるが、最大限の努力をこれからもお願いしたい。
2	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している	2.5			
3	科目と単元の構成の考え方は、教育理念・目的、教育目標と整合性がある	2.4			
4	構成した科目は理学療法士、作業療法士を養成するのに妥当である	3.0			
5	構成した科目は本学院の特徴を表している	2.9			

III-4 教育計画

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	単位履修の方法とその制約が教員・学生の双方がわかるように明示され、その方法が学生の単位修得の支援となっている	2.7	単位履修の方法とその制約については学生便覧等に示されており、オリエンテーション時に説明する等周知に努めている。シラバスに学習方法及び配点を詳細に明記しており	・特記事項なし	・異動職種であることが、内部評価が伸び悩んでいる要因の一つではないか。
2	理学療法士・作業療法士になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている	2.6	学生支援に繋がっているが、分かりやすさ、順序性など工夫が必要である。学修の質を維持できるように科目を配列しているが新カリキュラム移行期に入り関連性、順位性、履修する学年等の調整が必要である。学外の関連分野関係者と連携し、カリキュラムの検討は行っているが、継続した見直しは必要である。		
3	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われている	2.9			

III-5 教育課程評価の体系

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	単位認定の基準は理学療法士、作業療法士に必要な学習を認めるものとして妥当である	3.0	学則により単位認定の基準は明確であり、必要な学習を認めるものとして妥当と思われる。単位認定は基準に基づき、期末試験、レポート、特別試験等で評価され、議論が必要な場合は学科内で十分におこない運営会議で承認されている。しかし、科目、講師によって単位認定基準の難易度に差があるなど検討を要する場面がある。他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えており、単位認定が行われている。	・特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	単位認定の方法は理学療法士、作業療法士に必要な学習を認めるものとして妥当である	2.8			
3	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている	3.0			

III-6 教員の教育・研究活動の充実

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している	2.2	教員が専門性を発揮できるように、担当科目と時間数の配分を調整しているが、人事異動等により専門性が十分に発揮できないことはある。業務の効率化やシフト勤務等で工夫しているが授業や学生対応の他に係等の業務量が多く、授業準備の時間を確保することが難しい状況は継続しており、課題と認識している。年間教育計画で整備しているが、それ以上となると時間の確保が難しい状況にある。研究授業や教授方法の検討など相互研鑽の機会を設けているが、頻度は少なく相互研鑽のシステムとして十分に機能しているとは言えない。	PT学科 ・学年制の弊害もあり、前年度を踏襲することが多いため、授業のない8月、3月に共通の課題として共有、改善案を検討、実施する。 OT学科 ・継続して課題意識を持ち検討していけるように、年間計画を立て実施する。	・教員が行う学院の管理・運営の業務量が多い点に対し、外部委託など負担軽減につながる方法を検討してもよい。 ・知恵と工夫で色々と試行錯誤を繰り返すしかない。 ・教員の臨床業務参加について、収益に加え若手の教育にも繋がるとよい。
2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている	1.9			
3	教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている	2.5			
4	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている	2.4			

III-7 学生の理学療法、作業療法実践体験の保障

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	臨床実習施設は、本学院の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解しているか	2.5	実習の手引きを作成し、実習指導者説明会や実習地訪問の際に説明し周知に努めている。説明会は昨年に続きコロナウイルス感染症によりオンラインで実施。本学院の特徴はおおむね理解されていると思われるが、実習施設・実習指導者により理解度に差がある。CCSの導入により、施設間、SV間での認識の差が大きく、調整が必要。学生の状況に応じて電話連絡を取り合い、適切な時期に実習地訪問を行う等の協働体制を整えており情報交換・情報共有に努めている。昨年に続きコロナウイルス感染症により訪問を控えておりオンライン会議等も活用し工夫する必要がある。臨床実習に向けてのオリエンテーションや個人情報保護法の説明を行うとともに、実習の手引きに明示して伝達している。臨床実習において学生が関係する事故等があった場合、ヒヤリハット報告書の作成及び実習指導者からの情報収集等により、状況を把握し、原因分析を行い対策を講じるとともに、学生にも周知している。リスク管理・感染管理に関する講義を実施しており、臨床実習に関しては、実習の手引きに明示し、オリエンテーション時に説明するなど、計画的に指導している。	PT学科 ・CCSの導入に伴い、到達目標、指導方法等において周知、調整が必要であり、実習説明会等とおして具体的に依頼する。 ・OSCE、演習、実習での到達目標を再考する。 OT学科 ・実習施設、実習指導者による差が大きく、実習課題や進め方等において整理が必要であり、実習指導者に具体的に提示できるように準備を進める。	・臨床実習施設の立場からすると、カリキュラムの変更等、指導者側も戸惑うことが多くあり、臨床と教員の協働という点では、不十分な印象を持っている。今後いかに連携を取っていくかを考えていく必要がある。 ・大事なのは学生がここをこういう風にすれば一歩前進できる、そのようなヒントとして捉えられるように、教員がフィードバックしてあげられるとよい。 ・理学療法学科の新たな取り組みの評価実習一期は、一週間と短かったので慣れず時間経過で終わった印象。CCSでは、学習の機会が均等でない、均てん化されていないということは気になる。
2	臨床実習施設は学生の理学療法、作業療法実践の学習を支援する体制を整えているか	2.9			
3	臨床実習指導における学生の学びを保障するために、臨床実習指導者の役割を明確にしているか	2.9			
4	臨床実習指導者と教員の協働体制を整えているか	2.7			
5	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示しているか	3.0			
6	臨床実習において学生が関係する事故を把握、分析しているか	2.9			
7	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っているか	3.0			

IV 教授・学習方法

IV-1 授業内容のまとまりの考え方

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	2.8	授業内容は各学科内で検討し学生に合わせて設定している。妥当性を持つよう努めているが重複、整合性、発展性において十分とは言えない。	PT学科 ・OSCE、評価学演習、臨床実習Ⅱの見直し(教育課程編成委員会報告) OT学科 ・学生の能力評価結果に基づいた学習方法の導入	・新しい内容に全体が引っ張られる傾向があるため、どこに重点置くかの検討が大切と考える。OSCEも試験として判定することが主なのか、ある一定の水準を全員が身につけるようにするのか、練習課程を重視するのかもう少し整理するとよい。
2	授業内容のまとまりは、理学療法、作業療法学の教育内容として妥当性がある。	2.6			
3	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている	2.4			

IV-2 授業の展開過程

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	授業形態(講義、演習、実習)は、授業内容に応じて選択している。	2.7	授業内容に応じた選択の共有に努めているが、担当教員に任されているところが大きいため、常に共有と必要に応じた修正が必要である。各学年においてセミナー、口頭試問、学年間での取り組み、チューター制等学生の状況に応じた学習支援に努めている。個別対応は学年担任に任せられておりシフト勤務の活用など教員の負担軽減には配慮が必要である。ミーティングや教員間で情報共有し、協力して教育・指導に努めているが、付加業務、異動もあり明確な協力体制には至っていない。	PT学科 ・チューター制の2・3年生への検討(学校関係者評価委員会報告) ・学年毎の到達目標の整備、実習前後の学生能力評価の継続(教育課程編成委員会報告) OT学科 ・演習における授業展開や評価方法の検討、およびその効果検討の継続(教育課程編成委員会報告) ・臨床実習前後における学生能力評価および評価結果への対応の検討(教育課程編成委員会報告)	・授業の中に学年を超えて、混成での授業は、先輩からの話も聞けて、授業の動機付けになるので、非常に良い取り組みである。時代の流れというか、今は厳しく教育するというより、ゆったりした中で勉強していくスタイルが学生にも好まれている。東名古屋リハ学院のレベルの高さ、知識がある、礼儀が整っているなど、最初から就職1年目で差が見られるが、何年か経つと差が感じられなくなる気もする。学院の特色にもつながっている厳しいカリキュラムを変えるのは難しいかもしれないが、提出物、試験方法など削れるものを削る策も必要である。 ・教員が異動することで、継続して取り組むべき課題が、積み残されてしまっているのではないかと感じる。
2	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している	2.7			
3	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている	2.5			

IV-3 目標達成の評価とフィードバック

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	評価計画が立案・実施され、評価結果に基づいて、実際に授業を改善している	2.6	前期・後期に学生による授業評価、学科内での検討を通して改善に努めているが、共通のツールはなく教員に任せられている面があり相互研鑽の必要はある。多面的な評価に繋がるように努めているが、継続した検討が必要である。評価基準と方法は学生便覧、シラバスに明示され、公平性が保たれている。	PT学科 ・学年毎の到達目標の整備、実習前後の学生能力評価の継続(教育課程編成委員会)  OT学科 ・包括的な学生の能力評価の検討(教育課程編成委員会)	・外部講師を含め担当教員が多数いることや年度毎に入れ替わりもあることから、3年間を通し一貫した方法で行う事は難しいが努力されている。 ・各々の評価やフィードバックも完成されたものは無いと思われるので、今後も継続した努力をお願いしたい。
2	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている	2.4			
3	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表し、単位認定の評価には公平性が保たれている	2.9			

IV-4 学習への動機づけと支援

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	シラバスの提示は、本学院全体としての一貫性があり、学生の学習への動機づけと支援になっている。	2.6	シラバスは一貫性があり、授業内で授業目標を確認するなど学生支援の動機づけに繋がっている。評価方法を具体的に明記するなど活用度、整合性については継続して検討が必要である。	PT学科 ・R6年度に向けてシラバスの科目ごとの整合性を図り、学生の指針となるように改善を図る(教育課程編成委員会)	・シラバスをネット上で見ると、簡単な内容すぎて、学生の学習への動機づけには遠いような気がする。学習の動機づけは難しいが、PT、OTにとって必要性を説明するしかないかともいえる。授業の動機づけは、卒業生の講義などで、必要性を説明してもらったほうがわかりやすいのではないかと。

V 経営・管理過程と財政

V-1 設置者の意思

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	本学院の管理者(主事以上)は教育理念・教育目的についての考え方を明示している	3.0	学則、学生便覧、中期計画、経営管理目標等で明示され病院目標及び学院目標にも反映されている。中期計画に示されているが教育課程経営、管理運営については十分とは言えない。必要に応じて説明し理解に努めているが、十分とは言えない。	・特記事項なし	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし
2	本学院の管理者(主事以上)は教育課程経営についての考え方を明示している	2.8			
3	本学院の管理者(主事以上)は本学院の管理運営等についての考え方を明示している	2.8			
4	教職員は本学院の設置者(機構)と管理者(主事以上)の考え方を理解している	2.6			

V-2 組織体制

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	本学院の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている	2.6	組織体制は明確になっているが、教員の役割機能においては十分とは言えない。意思決定システムとして学科内会議、学院運営会議が設けられており、意見を述べられる環境はつくられている。R4より理学療法学科では2名の臨床参加を開始している。	・教員の臨床参加の継続と拡充を図る。	・経営に関しては、機構が大きな権限があり、学院としては、要望を出して、現場の声を伝えるしか仕方がないのではないかと。
2	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている	2.7			
3	教職員の資質の向上にむけての施策には教育理念・教育目的達成の整合性がある	2.7			

V-3 財政基盤

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である	2.6	政基盤の確保に関する考え方は明確であるが、厳しい状況が続いている。幹部会議、管理会議、診療会議の報告及び決算報告や各種資料により理解に努めているが、十分とは言えない。教職員はミーティング、運営会議等で意見を出すことができるが、業務が多岐に及び教員が財政的視点で考える環境には至っていない。	・学院単体の損益計算書をもとに収支について周知を継続する。	・厳しい経営状況、置かれている現状を主事・教員が共有し、意見交換ができる環境をつくってほしい。
2	教職員は、本学院がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している	2.5			
3	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている	2.4			

V-4 施設設備の整備

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	学習・教育環境の整備について、管理者(主事以上)の考え方を明示している	2.9	必要な機材等は適宜、更新されているが、年計画として整備案を作成するには至っていない。老朽化、冷暖房、和式トイレなどのハード面の整備は予算的に難しい状況であるが、R4に空調設備更新を実施。東名古屋病院の防災訓練に参加、R3に学生寮の防災マニュアルを策定し防災体制の整備を行いR4に避難訓練を実施。	・施設整備の年間計画書の作成 ・学生寮等の防災訓練の継続	・ソフト面の充実や学生寮の防災マニュアル、避難訓練実施などは評価に値する。今後は新しい生活様式での学生支援や対面の広報活動再開などが望まれる。 ・施設がよくないと入学希望は減るので、機構には要望だけはしておかないといけない。
2	管理者(主事以上)の考え方に基いて整備計画を立案し、実施している	2.5			
3	学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している	2.5			
4	防災に対する体制を整備している	2.6			

V-5 学生生活の支援

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている	2.9	学生生活の支援として、定期健康診断、学生相談会、寮生活の支援、奨学金利用の手続き、専門実践教育訓練給付金利用の手続き等、支援体制の整備に努めているが施設整備等、ハード面の整備については経営、組織上難しい。現在実施している支援は活用されており、学習の継続に繋がっているが、留年、精神的に不安な学生に対してはさらに細やかな支援が必要である。	PT学科 ・チューター制の継続  OT学科 ・個別支援の充実	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし
2	支援体制は、実際に学生に活用され、学習の継続を助けている	2.7			

V-6 本学院に関する情報提供

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている	2.9	入学時の説明の他、学事や経費に関する文書の送付等に関する連絡、成績不良者への個別連絡など、適宜情報提供を行っている。R4からは、HP上に保護者へのお知らせを作成し、適宜更新している。定期的な情報提供と個別連絡により、理解を得やすい関係が作られ、協力・支援に繋がっている。ホームページ、パンフレットの配布、学院説明会、病院ニュース、年報、高校訪問、研究発表等、活用できる資源を用いて広報活動を行っているが、さらに動画の活用などの工夫が必要である。昨年に続きコロナウイルス感染症により高校訪問は中止し電話連絡とし、学院説明会は予約制とともにWeb配信とした継続して工夫が必要である。	・HP上での保護者向け案内の充実 OT学科 ・保護者との良好な関係づくりを目指す情報提供の充実	・きめ細かい対応をされている。親御さんの理解が大切で早い段階から説明しておくことが必要。
2	関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている	2.8			
3	理学療法士、作業療法士を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行なっている	2.3			

V-7 本学院の運営計画と将来構想

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	本学院は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している	2.6	中長期計画を立案しているが、将来構想は機構本部の考えもあり明確化が難しい状況にある。運営方針は毎年度評価として機構本部に提出している。	・特記事項なし	・将来構想が現場主導ではないと思われ、且つ、財政面と施設整備は厳しい状況が容易に想像できハード面の課題は多い。

V-8 自己点検・自己評価体制

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している	2.9	自己点検・自己評価の意味・目的に対する理解が進み、評価・点検に必要な資料も整備されている。毎年、実施する体制を整えており、改善点を見直しながら運用している。評価結果について共有し、次年度の改善へ向けた目標を作成し一定の機能は担保されているが、管理運営や授業実践へのフィードバックとして活用するには至っていない。	自己評価、自己点検が次年度の具体的な改善に繋がるように学科毎に検討する。	自己評価について特に問題なし
2	自己点検・自己評価体制を整え、運用している	3.0			
3	自己点検・自己評価は、本学院のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している	2.6			

V-9 法令等の遵守

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている	3.0	法令、基準を遵守し、適正な運営がなされている。個人情報保護に関して適宜教員が研修を受けるとともに、学生に周知を図っている。	特記事項なし	自己評価について特に問題なし
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	3.0			

VI 入学

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育理念・目的との一貫性から入学選抜についての考え方が述べられている	2.8	入学選抜には、教育理念・目的との一貫性から、アドミッションポリシーを明示している。入学者状況や入学者の推移について分析・検証し翌年に活かしているが、入学選抜方法の妥当性や教育効果の継続的な視点は不足しており、検討が必要である。	PT学科 ・R5年度から社会人選抜を実施。 OT学科 ・R6年度より社会人選抜、一般入試(前・後期日程)を実施予定。	・OT学科は、定員割れが続いている厳しい現状であり、如何に結果を出すのが難しいのではないかと。 ・入学選抜方法の妥当性や教育効果の判定については継続的な検討をお願いしたい。
2	入学者状況、入学者の推移について、入学選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証されている	2.6			

VII 卒業・就職・進学

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている	2.6	期末試験と臨床実習Ⅲの結果から総合的に判断している。臨床実習前後の評価に取り組んでいるが卒業試験等は実施しておらず、CBTやOSCEなど到達状況の捉え方にはさらに検討が必要である。国家試験の合格率、実習での評価等の包括的な把握に留まっており、実習前後の評価や卒業前評価など明確な指標の検討、実施し分析することが必要である。就職、進学状況は把握しているが、十分な分析には至っていない。国立病院機構への就職率等は、目標との整合性を認めるが、卒業時の到達状況や他機関への就職状況の分析は不十分である。ホームページへの掲載や同窓会運営への参加、R4からは卒業生へのアンケートを実施しているが、学院主催の卒業教育を含めて組織的な体制に向けて連携、検討が必要である。	PT学科 ・R4より卒業一年目にLINEとアンケートを実施しており、継続。	・卒業先などのデータは、入学希望選定材料になるので、まとめておいたほうがよい。 ・新卒者において、職場環境に適応できず、心身の不調から、休職・離職するケースが増えている。卒業生の拠り所となっていたけるとよい。 ・国立病院機構への就職率は何%くらいか。卒業時到達状況は国家試験以外では卒業生や就職先施設からのフィードバックで分析できるのか。学院主催の卒業教育や同窓会と協力することで情報交換ができるかも知れない。実践内容は卒業教育にシフトしていると思いで、職場への定着や離職率などを追跡するのも1つの参考になるのではないかと。学生同士の学年を超えた取り組みは、卒業後の情報交換も行いやすいため、関係作りにはよい。卒業生の窓口は教員が変わると連絡しにくいと、窓口を同窓会にすることは一つだと考える。
2	卒業時の到達状況を分析している	2.3			
3	卒業生の就職・進学状況を分析している	2.3			
4	卒業生の到達状況、就職・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある	2.2			
5	卒業生への支援体制がある	2.7			

VIII 地域社会／国際交流

VIII-1 地域社会との連携

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している	1.9	地域のニーズを把握する具体的な方策が未達成であり、継続したである。学院祭や公開講座を通して地域との交流を図り、授業では老人保健施設でレクリエーション、学生有志のボランティア活動等を行っていたが、昨年よりコロナウイルス感染症により実施できていない。昨年よりオンラインでの公開講座を実施している。HPによる情報発信が中心となるが、地域社会への発信は限られており継続した課題である。学習・教育活動の中に、老人保健施設、特別養護老人ホーム、グループホーム、介護用品ショップ、福祉工場、作業所などの見学や、老人保健施設でのレクリエーションなどを取り入れているが、昨年よりコロナウイルス感染症により実施できていない。	・特記事項なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会との連携において、コロナが落ち着きつつあるが、またいつ流行するか分からないため対面に頼らない何らかの方策を検討すべき。</li> <li>・コロナ禍以前より内部評価が低い項目だった。厳しい環境下ではあるが、今後も充実に取り組んでほしい。</li> <li>・地域社会との連携は状況的に難しかったと思うが、感染レベルの変化に伴い、他校の情報も得ながら次年度に向けて準備をはじめめる時期かもしれない。</li> <li>・「地域社会」「地域ニーズ」について教員間で共有し、具体的な取り組みに期待する。</li> <li>・地域貢献について、全体に評価が低くなっている背景としてコロナ禍の側面はそろそろ改善できそうに思うが、教員に時間的余裕がないことに関しては今後も改善が必要。</li> </ul>
2	理学療法、作業療法教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている	1.9			
3	本学院から地域社会へ情報を発信する手段をもっている	2.2			
4	地域内における諸資源を本学院の学習・教育活動に取り入れている	2.0			

VIII-2 国際交流

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している	2.6	JICA見学や海外派遣経験者による講義を取り入れているが、十分とは言えない。英文雑誌、インターネット環境などの整備はあるが十分ではなく、特にハード面の更新は常に課題である。	・特記事項なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これも難題だが、外国へのあこがれがある学生がいた場合に、適切な情報提供ができればよいのでは。無理しなくてもよい課題ではないか。</li> <li>・国際交流については前年比アップしており評価したい。</li> <li>・国際交流について、ハード面の整備はいくつもの障害で難しい点もあると思うが、国際交流に関する情報提供は常に行ってほしい。</li> </ul>
2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている	2.3			

IX 研究

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している	2.2	日常業務が多く研究活動が行える環境にはない。学院内での予演会や研究授業を通して助言・検討の場があるが、研究活動を継続的に助言・検討する体制は整備されていない。教育や管理・運営業務に重点が置かれ、研究の優先度は低い。年間教育計画で総合医学会などで毎年発表しているが、文化的素地があるとは言い難く継続した課題である。	・業務の効率化を進め継続して研究の土壌を整備していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の忙しさ、これは毎年あがることですが、時間的余裕がなければ、授業の下調べが不十分となり、講義の内容が貧弱になる。また研究は、大切なことだが、時間が必要なこと、経費も含めてないといけない。ただ研究というのは、自分のためではなく、得られた成果は必ず授業にも反映するので是非取り組んでほしい。</li> <li>・昨年度より内部評価は上がっているが、個々の教員の努力だけで研究環境を充実させることは厳しい。</li> <li>・やる気と時間を作る事は内発的な部分も大きいと思われるが、外部の刺激を多く受けその様な文化的素地ができると良い。病院の臨床研究部の活用などは可能なのか。</li> </ul>
2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている	2.6			
3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が本学院にある	2.0			